

社会福祉協議会職員による 「相談支援からの参加支援」の 推進方法に関する整理

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会
(発表責任者: 多田 遥香)

本研究の目的

- 重層的支援体制整備事業における「参加支援事業」は、一定要件のもと、本人の同意を得てプランを作成し、社会参加に向けた支援のための資源開発やマッチング、定着支援やフォローアップを実施することとなっている。
- 地域生活課題を抱えた住民への社会参加の支援は、特定の事業が限定して担うものではなく、既存のさまざまな事業に内包された「機能」と捉えるべきではないか。また、現場では多くの実践例があるが、そのポイントは十分整理されていないのではないか。



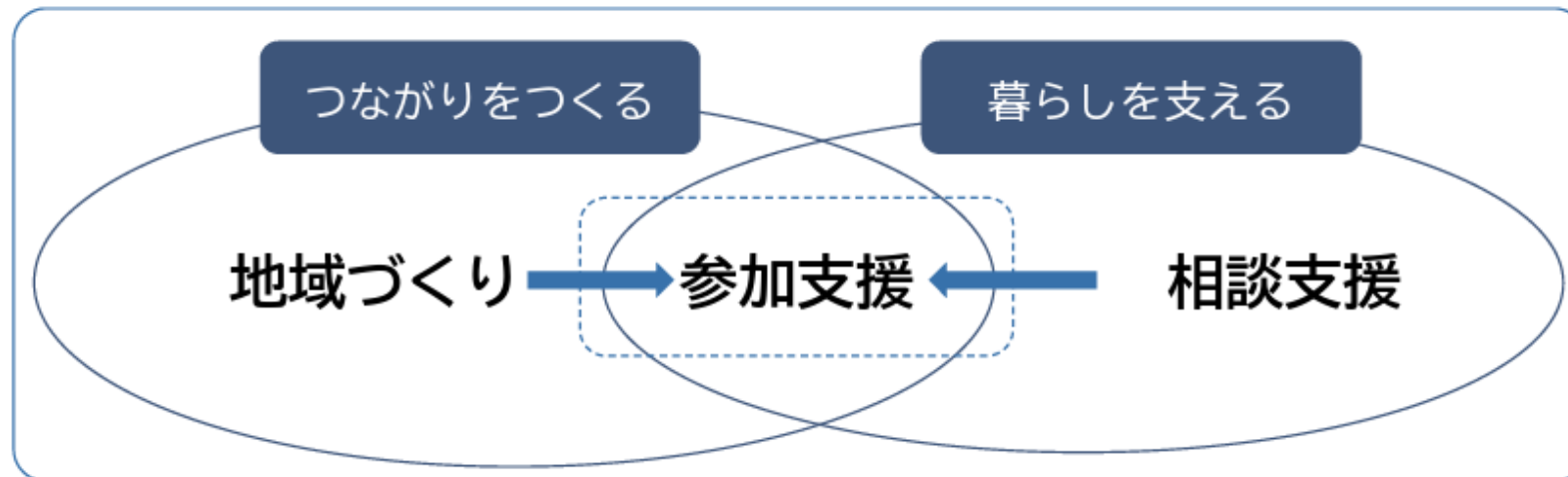
福祉専門職である社協職員が、**相談支援から参加支援をおこなうための方法や視点**を整理し、今後の実践に活かすことを目的とする。

※本資料内では、社会福祉協議会は「社協」の略称を基本として表記。

本研究の背景 – 社協が関わる計画・実践との関連性 –

第3期 大阪市地域福祉活動推進計画（令和6～8年度）

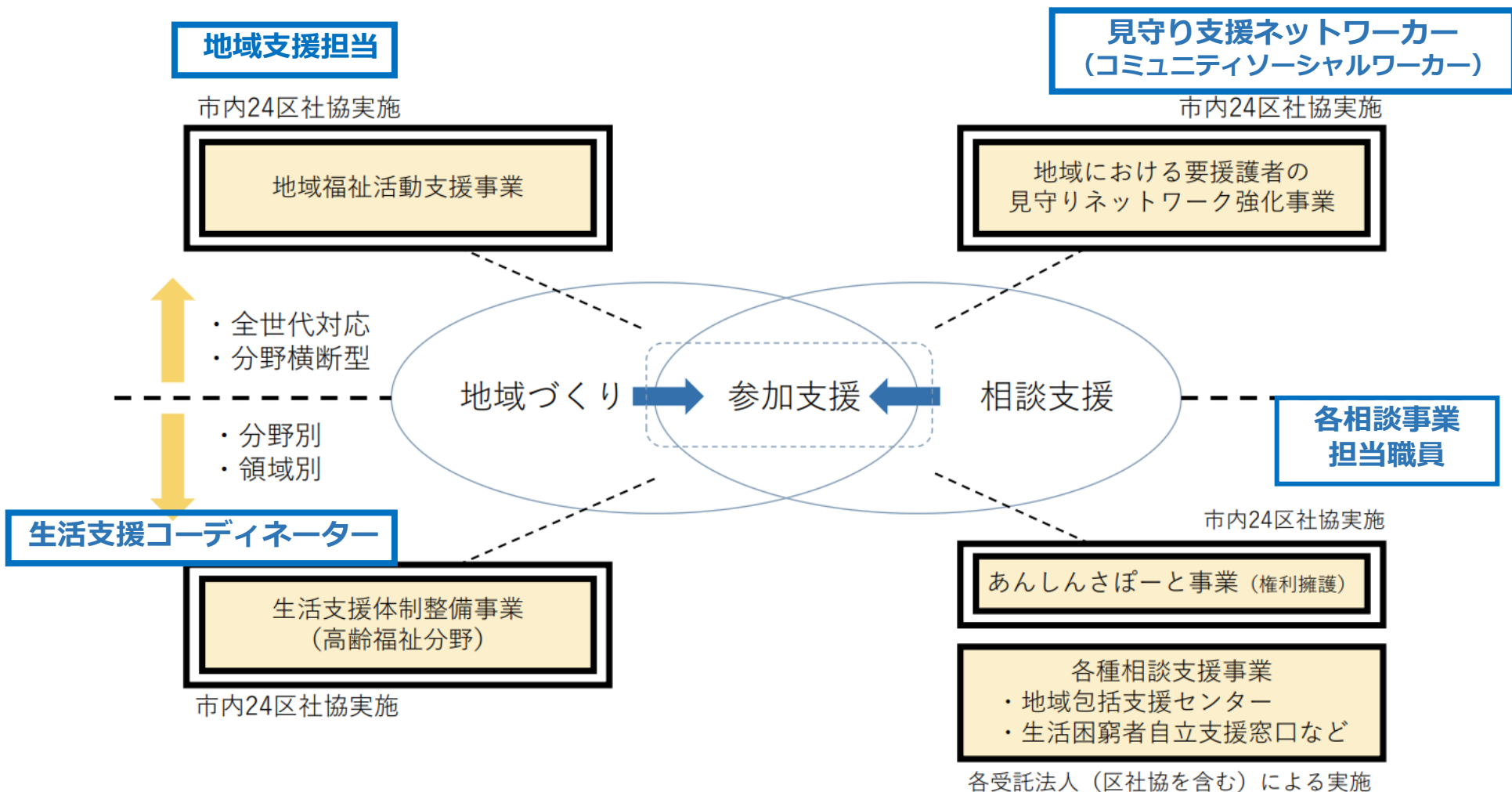
- ・重点推進項目として「参加支援」の強化をめざしている
- ・「参加支援」について、「相談支援」と「地域づくり」双方からのアプローチを図により整理
- ・本研究は、同計画に基づく取組みの一環であり、研究成果をふまえてガイドブックを作成・発信



出典:大阪市社会福祉協議会「第3期 大阪市地域福祉活動推進計画」

社協職員・福祉専門職のための
参加支援ガイドブック
－相談支援からの参加支援－

「地域づくり」「相談支援」「参加支援」と 大阪市内24区社協の主な事業の関係性



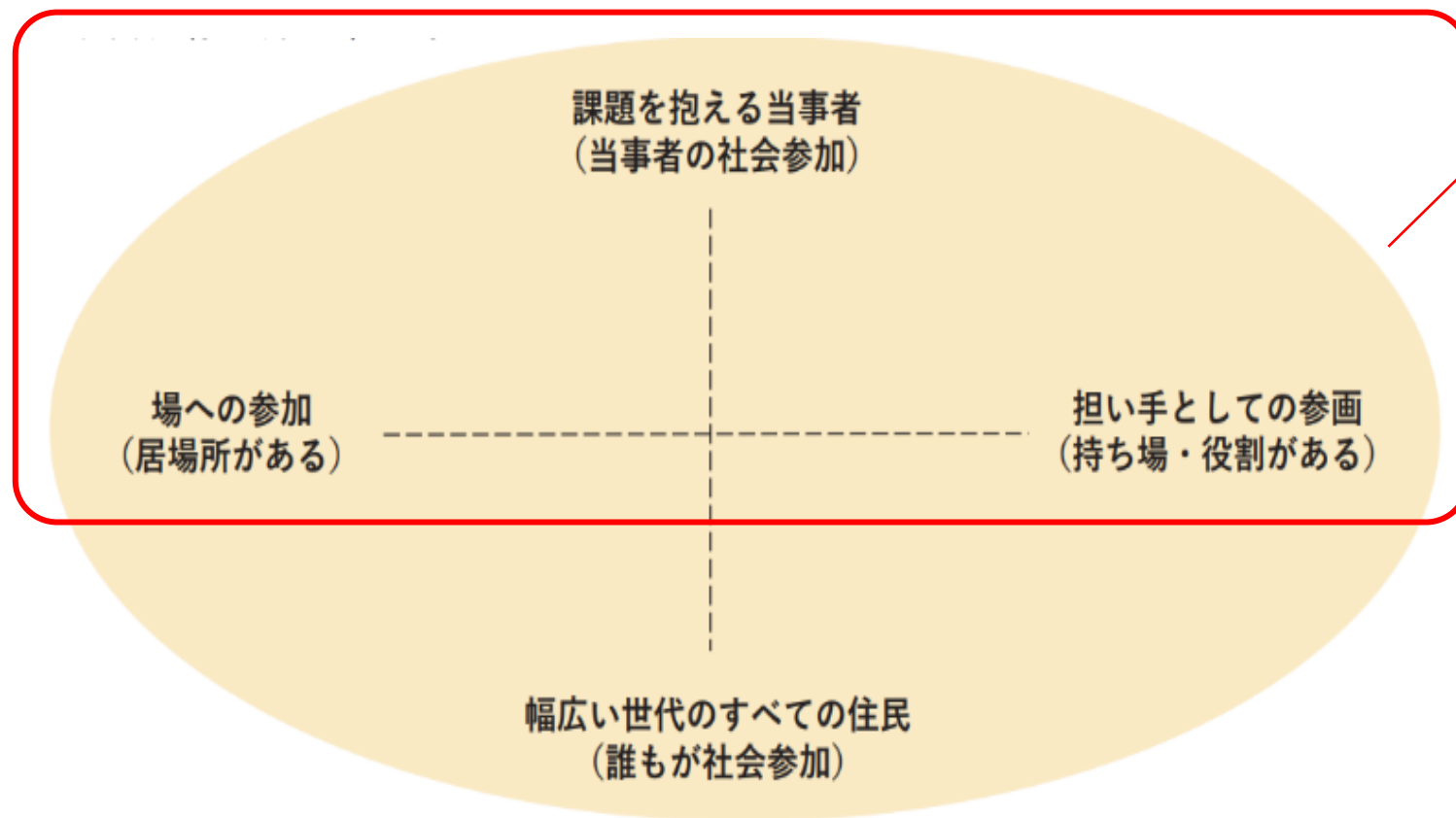
・区社協では、「地域づくり」「相談支援」いずれの要素が強い事業であっても、共通してさまざまな切り口から「参加支援」につながられる可能性がある

・この図で示しているのは社協事業のみであるが、「参加支援」は社協が特化して行うものではなく、行政・福祉専門職、地域住民・関係団体も果たすことができる（参加支援とは意識していなくても現に発揮されている）機能である

※主な事業を中心に位置関係を整理。他にも、区独自事業など、さまざまな事業を通じて地域福祉を推進

参加支援に関する整理枠組みと本研究の主な対象範囲

図の赤枠部分における 社協による支援が 今回の研究の対象範囲



【図に関する解説】

- 縦軸は、参加の主体（対象）を示し、上部は「課題を抱える当事者」とし、下部は「幅広い世代のすべての住民」としている。何かしらの生活上の課題や困りごとを抱える当事者も、当然ながら住民の一員であるが、生活上の困難やさまざまな障壁から孤立状態に陥るリスクが高く、参加にあたって何らかのサポートや配慮、提案・調整が介在する場合が比較的多いことから、異なる位置付けで表している。
- 横軸は、参加・参画の形について、左に「場への参加」、右に「担い手としての参画」を配置している。ある人の参加の状態を見たとき、いずれか一方に位置することもあれば、場の参加者から活動者へ移行すること（左→右）、活動を担ってきた人が加齢や状況変化のなかで一参加者としての参加を継続する（右→左）といった動きもある。

研究方法

事例収集

令和6年12月～
市内全24区社協の職員の関わりから、
「個別の相談支援から社会参加につながった事例」を集約

ヒアリング

令和7年2月～3月
5区社協へのヒアリングを実施
(西淀川区・淀川区・東淀川区・東成区・平野区)



整理・分析

集約した72事例から
「社協職員としての関わりやはたらきかけ」を抽出・分類
ヒアリング結果や学識経験者による助言から図解化及び
ポイント整理

※本研究は日本地域福祉学会研究倫理規定を遵守して実施。

※事例は、個人情報及びプライバシー保護の観点から、個人が特定されないよう配慮して収集・分析した。

事例収集の概要

■ 主な設問

- 参加の場・つなぎ先は、地域における活動や居場所、NPO・ボランティア等による場、当事者会・家族会、地域関係・福祉関係に限らない場（趣味活動等）も含めて、幅広く捉える（ただし、公的サービスの利用や一般就労は除く）また、区社協主催・運営の場への参加や区社協としてのボランティアコーディネートに基づく活動も含む。
- 参加支援として、本人がこれまでつながりがなかった場につなぐ（単発参加／継続参加／複数の場への参加）ほか、過去に参加していた場へのつなぎ直しや生活課題が生じたなかでも継続参加できるような支援も含む。

主な項目	個別の相談支援から、社会参加につながった事例の概要（基本情報、関わりのきっかけ）
	本人へのアセスメントの視点・内容（興味・関心、タイミング、つなぎ先のイメージなど）
	社会参加に向けて本人と参加の場それぞれにはたらきかけたこと（事前調整、初回、その後）
	場への参加や一連の関わりによる本人の変化、つなぎ先の参加の場・関係者への影響

■ 回答区社協数：全24区社協【集約事例数：計72件】

■ 集約事例の関係事業・部署

地域福祉活動支援事業／生活支援体制整備事業／見守り相談室（CSW）／地域包括支援センター
あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）／生活困窮者自立相談支援事業／その他

ヒアリングの概要

- 各区社協からの集約事例から、5区社協を選定し複数の支援事例に関わるなかで意識している参加支援の視点や支援方法、課題等を聞き取る
(※5区社協：西淀川区・淀川区・東淀川区・東成区・平野区)
- 可能な限り、当該事例の作成担当者を中心に複数事業担当者から聞き取る

■ ヒアリング項目

- (1) 当該事例について、事例シートをもとに詳細を聞き取る
- (2) 当該事例に限らない参加支援に関する事項を聞き取る

- | |
|--|
| ①個別の相談支援から居場所等の社会参加へのつなぎについて、うまくいかなかったことや感じている課題、具体的にこのような居場所や受入体制等があればと感じていること等 |
| ②個別の相談支援から居場所等の社会参加へつなぐ際に意識していること（主に本人に対して） |
| ③地域関係者や地域福祉活動へつなぐ際に意識していることやそのためにはたらきかけていること |
| ④区社協として、場づくりのために実施していることやこれから取り組んでみたいこと |
| ⑤その他（参加支援に関する意見等） |

集約事例等の分析方法について

集約した事例の記述内容から、次の5つの要素を一覧表に整理し、事例の全体像・傾向を把握

①社協職員としての関わりのきっかけ・入口

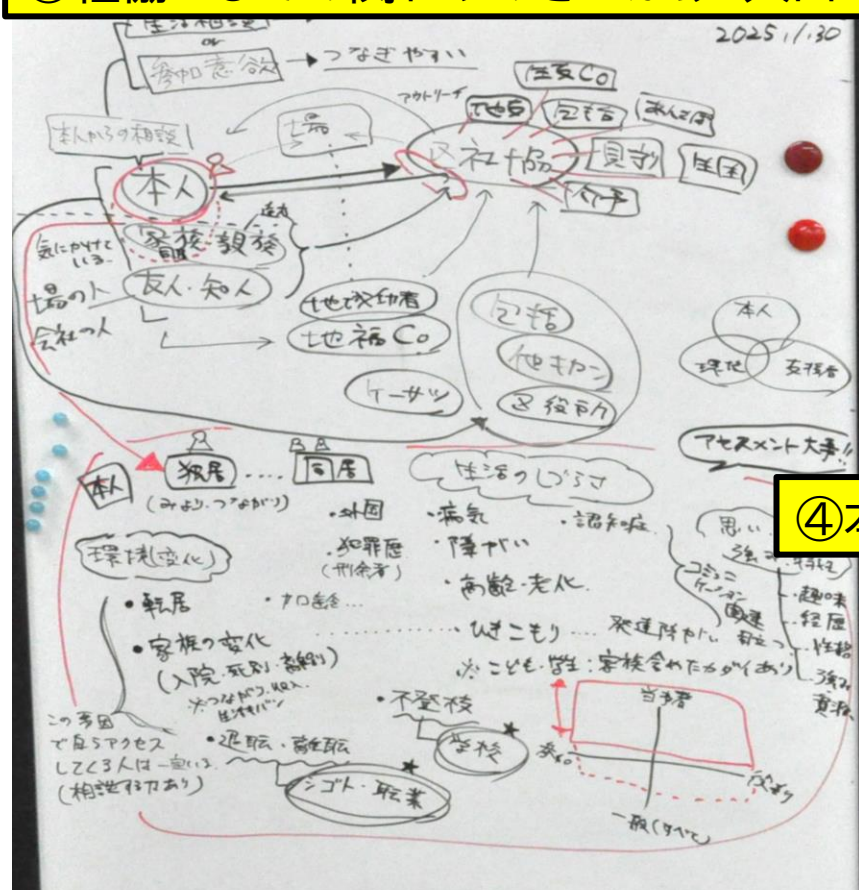
②対象者の生活課題・生活環境の特徴

③参加の場・関係先

④本人の変化

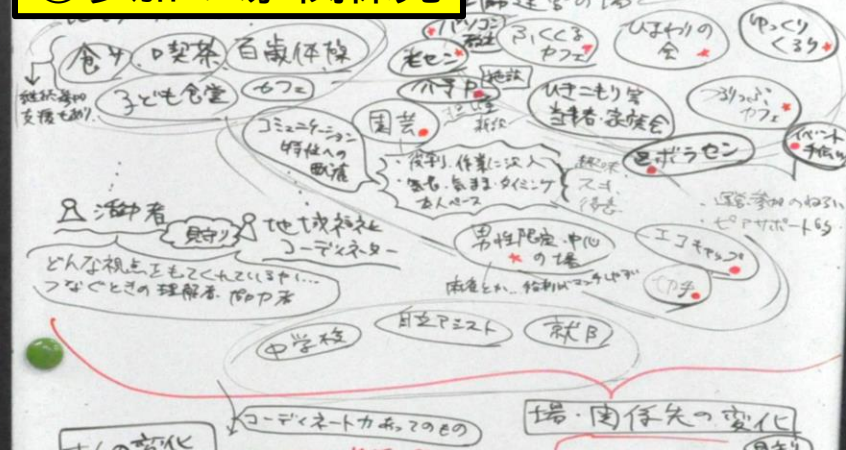
⑤参加の場・関係者の変化

①社協としての関わりのきっかけ・入口



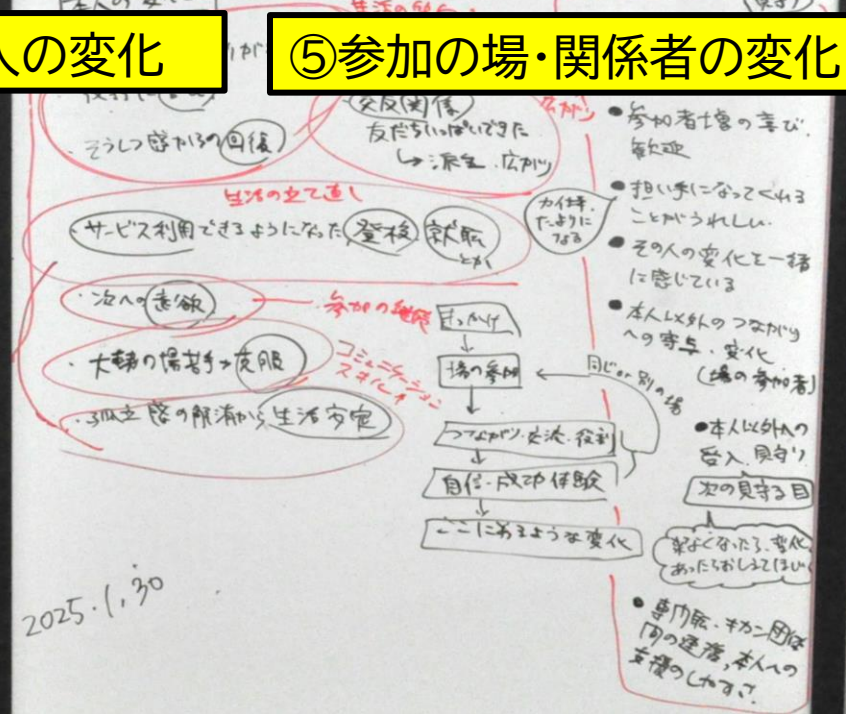
②対象者の生活課題・生活環境の特徴

③参加の場・関係先



④本人の変化

⑤参加の場・関係者の変化



集約事例等の分析方法について



事例の記述内容から「社協職員としてのほたらきかけ・視点」に該当する部分を抽出して、付箋に書き出す

類似した内容をグループ化・ カテゴリー分けして一覧表に 整理



一連の支援の流れを想定して、各カテゴリーが示す範囲と相互の関連性・連動性について整理し、図解化。ヒアリング結果もふまえて、ポイントを整理



事例要素分析（１）

＜一時段階での整理内容＞

コード数	大区分		小区分		抽出した要素(抜粋)
5	00	支援にあたっての価値観・姿勢、日頃からの連携体制	00-01	支援にあたっての価値観・姿勢	・本人の希望や意思を意識的に聴き取る機会を設ける ・キーパーソンを介しながら本人の意向を聞く ・日頃から地域活動者から地域の参加者の気になることを相談してもらえ関係をつくる
			00-02	日頃からの連携体制(地域関係者等)	
1	01	本人との関わりの関わりの入口・きっかけづくりと関係構築	01-01	本人からの相談に基づく初期対応	・関係構築のため、自宅訪問・面談を重ねるとともに、協力者となる家族の意向も都度確認する
10	02	生活課題への対応を中心としたアセスメントと具体的な支援	02-01	生活状況・生活課題の把握と支援方針の設定	・今後想定される課題も考慮し、相談先を増やすための丁寧なアセスメント ・生活課題への支援のなかで本人の好きなことや強みを聞き取る ・生活課題への支援を通じた関係の構築⇒本人とともに生活ビジョンを考える ・将来を見据え、自立した生活に向かうための1つの通過点・きっかけづくり ・限定的な関係から依存先をいくつかつくれるように⇒自立した生活へ ・長期目標に向けたスモールステップの目標達成により自己肯定感UP・動機づけ ・本人が自分でできる連絡や(事業所等との)面談は本人に任せる
			02-02	生活課題への具体的な対応(サービス利用等含む)	
			02-03	その他	
24	03	社会参加を見据えたアセスメントと参加の場の提案・すり合わせ	03-01	社会参加を見据えた把握	・本人の興味・関心のあることや好きなこと等アセスメント ・ニーズや思いに合わせコーディネート ・本人の特技を先に職員が見せてもらう場をつくる ・本人の意向と担当職員との考えに相違がないよう写真などを見せながら情報提供 ・本人が望む他者との関係や距離感(性格)、特性をアセスメントし、参加の場を提案 ・本人のペースでのマッチング(声かけのタイミング等)/なじみのある場へのマッチング ・参加前に本人の不安を和らげることができるよう、場の見学等ができるよう調整
			03-02	参加の場の提案と本人の意思の確認・すり合わせ	
			03-03	その他	

事例要素分析（２）

＜一時段階での整理内容＞

コード数	大区分		小区分		抽出した要素(抜粋)
16	04	場への参加、地域でのつながりづくりに向けた事前調整	04-01	参加の場の運営者・地域関係者への事前の情報共有・調整	・場に参画している区社協職員に事前に本人の生活背景や参加の経緯や思い共有し、見守りや声かけの協力依頼、フォローが必要な点の共有 ・地域の運営メンバーに参加の経緯や思いを共有し、見守りや声かけを依頼 ・事前に場の運営者への共有と初回同行訪問によるつなぎ ・本人が参加しやすいよう、バリアを取り除くよう調整(環境調整、共生にむけた啓発) ・区社協主催の場のプログラムに本人の特技や経験を反映 ・一人の特技から場面をつくり、他の活動者を増やす
			04-02	顔つなぎや声かけに関する具体的な調整	
			04-03	参加にあたっての心理的・物理的障壁を取り除くアプローチ	
			04-04	本人の興味・関心等の場のプログラムへの反映・調整	
			04-05	場そのものの開発	
11	05	参加にあたってのサポートと直後のフォロー	05-01	同行支援を含む参加すること自体のサポート	・初回参加時には同行し、他の参加者と顔つなぎ、安心感をもってもらう ・参加後の本人の気持ちや思いに寄り添う(アフターフォロー) ・今後の活動継続は無理強いせず、本人の意向を大切に聞き取る
			05-02	本人と場の運営者・参加者等とのつながりづくりの支援・調整	
			05-03	参加後の本人の思いの確認と意向のすり合わせ	
17	06	状況に応じた支援・調整の継続	06-01	本人への場への参加に関する継続的支援と変化の確認	・人の役に立っていると実感し、成功体験が積み重ねられるよう声かけ・フォロー ・社協公式LINEの登録の促し、周知物を渡す等継続して場や活動の情報提供 ・社協だけではなく、他機関にも活動者やボランティアとして紹介 ・同じ場への継続した参加に至らなかった場合も、新たな場や活動の機会を提供する ・本人がつくった作品を社協館内で展示等モチベーション向上につながるようはたらきかけ ・地域活動者や場の運営者に対し、いつでも支援者や専門職に相談してもらえるよう、途切れない関係づくり ・地域活動者に対し、疾患や障がいの理解につながるよう講座等の開催 ・関係者や他の支援者へ適宜フィードバック
			06-02	第2・第3の場への参加機会の提案・調整	
			06-03	継続参加に向けた場との調整、声かけと見守りの依頼(専門職の存在による不安解消含む)	
			06-04	当事者理解・啓発に向けたはたらきかけ	
			06-05	他の支援者・関係者(親族・専門職等)との経過・情報共有	

※コードは主たる項目で計上しているが、複数区分を含む内容あり

＜研究結果＞

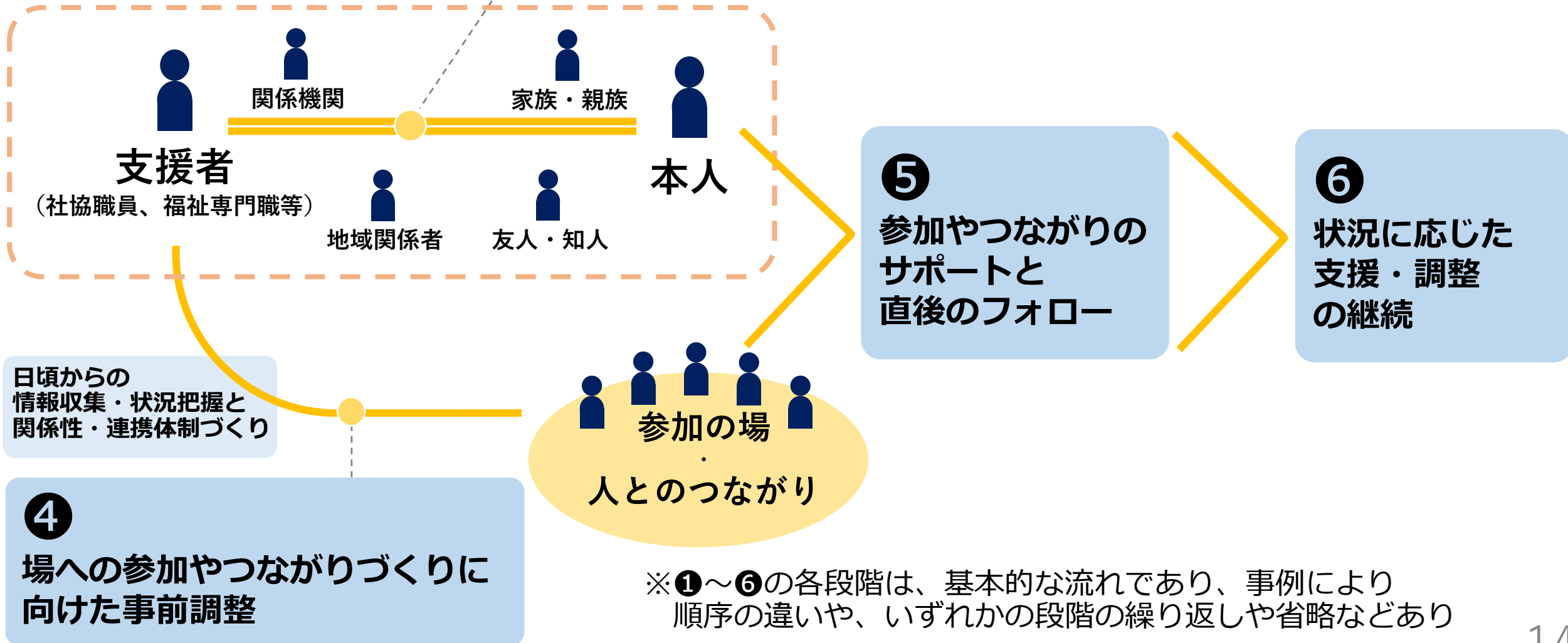
社協職員による相談支援からの参加支援の推進方法

- ① 本人との関わりの入口・きっかけづくりと関係構築
- ② 生活課題への対応を中心としたアセスメントと具体的な支援
- ③ 社会参加を見据えたアセスメントと提案・すり合わせ
- ④ 場への参加やつながりづくりに向けた事前調整
- ⑤ 参加やつながりのサポートと直後のフォロー
- ⑥ 状況に応じた支援・調整の継続

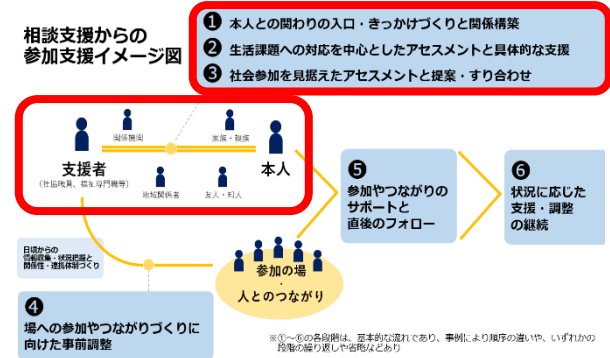
<研究結果>

相談支援からの 参加支援イメージ図

- ① 本人との関わりの入口・きっかけづくりと関係構築
- ② 生活課題への対応を中心としたアセスメントと具体的な支援
- ③ 社会参加を見据えたアセスメントと提案・すり合わせ



① 本人との関わりの入口・きっかけづくりと関係構築



- 信頼して相談・紹介してもらえる窓口となるよう、周知や日々の関わりを積み重ねる
- 本人のこれまでの生活スタイル、持っている力、社会との接点や関係性を把握する
- 本人を気にかける周囲の人の思いにも目を向け、その人との関係性も大切にする

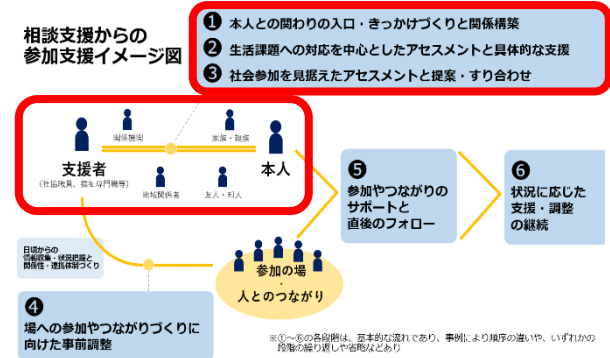
■ 事例から見えてきた「相談の入口」

- ・「本人」から
- ・「家族・親族」「知人・友人」から
- ・「地域役員・活動者・ボランティア等」から
- ・「他の支援者」から

■ 相談の入口の具体例

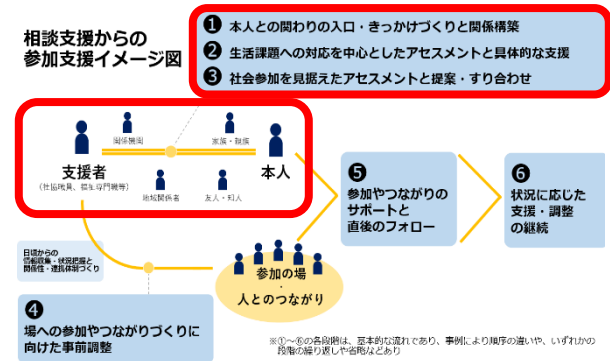
- ・「百歳体操の日時を間違えることが増えた人がある」と、地域福祉コーディネーターや住民から地域包括支援センターに相談
- ・ケアマネジャーから本人の社会参加について区社協（生活支援コーディネーター）に相談
- ・区保健福祉センターの精神保健福祉相談員から区社協主催の場につなげたい人がいると区社協（見守り相談室）に相談

② 生活課題への対応を中心としたアセスメントと具体的な支援



- 本人主体を基本とし、本人とともに生活状況や課題を整理し、めざす方向を決める
- 今すぐに必要な支援は何か、緊急度・優先度を見極め、スピード感をもって対応する
- 今後の生活を見据え、予測される展開やリスクを想定し、多職種で検討・支援する
- 福祉専門職としての関わりそのものが、本人にとっては社会との接点の一つと捉える

③ 社会参加を見据えたアセスメントと提案・すり合わせ



- 関わりを通じて、望む暮らしやつながり、興味・関心、得意なことなどを把握する
- 日頃から参加の場・関係先の情報収集に努め、一人ひとりに合った場を考える
- 本人の判断能力等をふまえ、思いを引き出し、よりよい選択ができるように関わる
- 本人にとってわかりやすい形で情報や選択肢を伝え、ていねいに意思確認する
- 場への参加にこだわらず、日常のつながり、社会との接点、関係性を大切にする

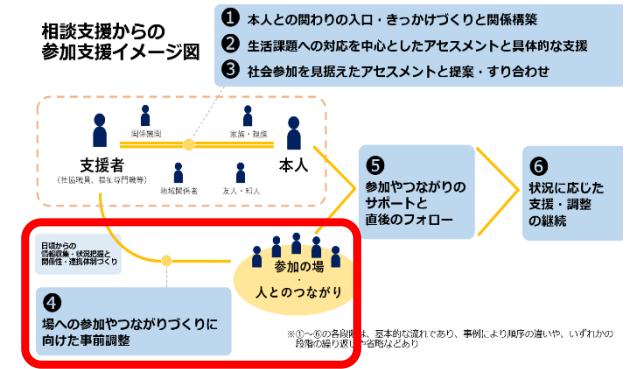
■ 事例に登場した多様な「参加の場」「参加・活動の形」

- ・ 会食会、喫茶、百歳体操、こども食堂、男性中心の場などの地域の居場所
- ・ 社会福祉施設での活動（介護予防ポイント事業、ボランティア活動など）
- ・ 区社協が独自に運営する居場所（ゆったり過ごし、好きなことができる場／当事者・家族会／園芸活動／エコキャップや使用済み切手などを整理するボランティアなど）
- ・ 各種講座・講演会・研修会・イベント（参加者として／お手伝いとして） など

■ 本人に参加の場を提案する際の伝え方の工夫

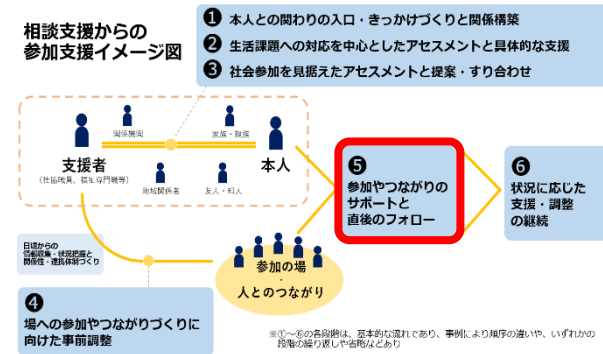
- ・ 本人の興味・関心があることから比較・検討しやすいように、候補となる場をいくつかピックアップして説明する
- ・ 区社協で作成した、活動・つどいに関するマップや情報誌、活動の写真をもとに、活動のイメージがずれることがないように、場の内容や雰囲気を具体的に伝える

④ 場への参加やつながりづくりに向けた事前調整



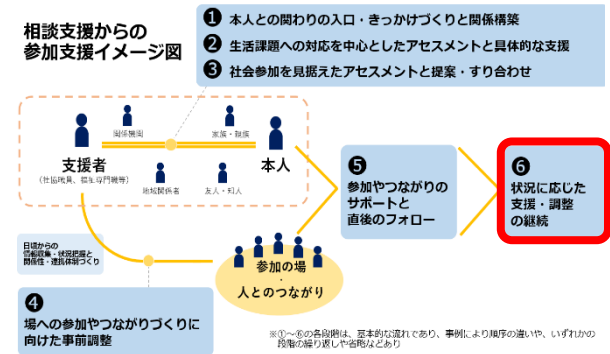
- 参加の場を単なる受け皿と見ず、固有の歴史や価値観を持つ活動主体として尊重する
- つなぐ際には、福祉専門職としての思いやねらいを伝え、ていねいにすり合わせる
- 事前の情報共有にあたっては、個人情報の取扱いやプライバシーには十分に配慮する
- 本人の円滑な参加にあたって壁となることを想定しておき、事前に調整する
- 本人に合う場がない場合は、新たな場の必要性を福祉専門職として共有・検討する

⑤ 参加やつながりのサポートと直後のフォロー



- 初めての場に参加する不安や戸惑う気持ちに寄り添う
- 顔つなぎ・関係づくり・フォローができるよう、初期段階は同行・同席を重視する
- 参加後、本人の様子や発言から、感想や気持ちの変化、以後の意向を確認する
- 参加の場へ感謝を伝え、参加の場と福祉専門職双方の思い・視点・気づきを共有する

⑥ 状況に応じた支援・調整の継続



- 継続参加、参加の形の変化、第2・第3の場の紹介など、状況に応じた支援を続ける
- 心身状況・意識・環境の変化を見逃さず、生活課題の予防や解決に向けて支援する
- 本人や同様の課題を抱える人への理解や見守りに向けて、ともに考える機会をつくる
- 落ち着いた後も、いつでも相談を受ける姿勢を本人、周囲の人、参加の場に伝える

■ 事例から見えてきた「本人の変化」

- ・ 表情が明るくなり、前向きな発言が増えた
- ・ 意思表示やコミュニケーションを自発的に取れるようになった
- ・ 参加の場以外でも会うような関係のよい友人ができた
- ・ 当初は受け身だったが、場を運営する中心メンバーとして活動するようになった
- ・ 生活課題の解決への意欲が高まり、サービスや制度の利用につながった
- ・ 就労への意欲が出てきて、就職に向けて面接に行くようになった

■ 事例から見えてきた「参加の場や関わる人の変化・動き」

- ・ 参加してくれる人・活動してくれる人が増えたことを喜んでいる
- ・ 本人の様子を見て、変化とともに喜びながら、活動の手応えを感じている
- ・ ゆるやかに見守り、変化があれば支援者に情報提供をしてくれるようになった
- ・ 本人との関わりや福祉専門職のはたらきかけで、疾病や障がいへの理解が深まった
- ・ 本人の存在がひきこもりがちだった他の参加者の背中を押すきっかけとなり、実際に就労にまでつながった

相談支援からの参加支援を实践するうえで 備えるべき視点

■ 社会参加・社会との接点を広く捉える

地域福祉活動、ボランティア活動、当事者会・家族会等への参加だけでなく…

- 家族・親族の状況や関係性、学業・職業などを通じた人との関わり
- 近所で気にかけて合う関係や、近くを出歩くときやよく行くお店などでの顔なじみの関係
- 近所に限らず、連絡を取り合う友人・知人、趣味・嗜好などをともにする仲間の存在
- 生活上の各種サービスの利用（生活全般／介護・福祉等）を通じた関係性や交流の機会など

その人の暮らし全体から社会的なつながりを捉えること、今あるつながりに目を向け、それらを奪わないこと、壊さないことも重要

福祉専門職との相談支援を通じた関係も、本人にとっては社会とつながる一歩と捉える

相談支援からの参加支援を実践するうえで備えるべき視点

■ 社会的孤立と支援の必要性

- ・サポートの乏しさ、強い孤独感、生活上の不安、健康リスクとも関連
- ・深刻な状態にある人への積極的な関わり + 予防的支援の視点

■ 生活の主体、参加の主役は本人

- ・本人が選択・行動できるように提案し、ていねいに意思確認
- ・決めつけ、押し付けから「断れない参加支援」にならないように

■ 「場づくり・地域づくり」あつての参加支援

- ・参加の場は、単なる受け皿ではなく、固有性・主体性をもつ存在と見る
- ・住民・ボランティア等による参加支援にあたる動きにも目を向ける
(例：気にかける、見守る、声をかける、お誘いする、受け入れる、関わる人同士で情報共有する、福祉専門職と連携するなど)

結果・考察

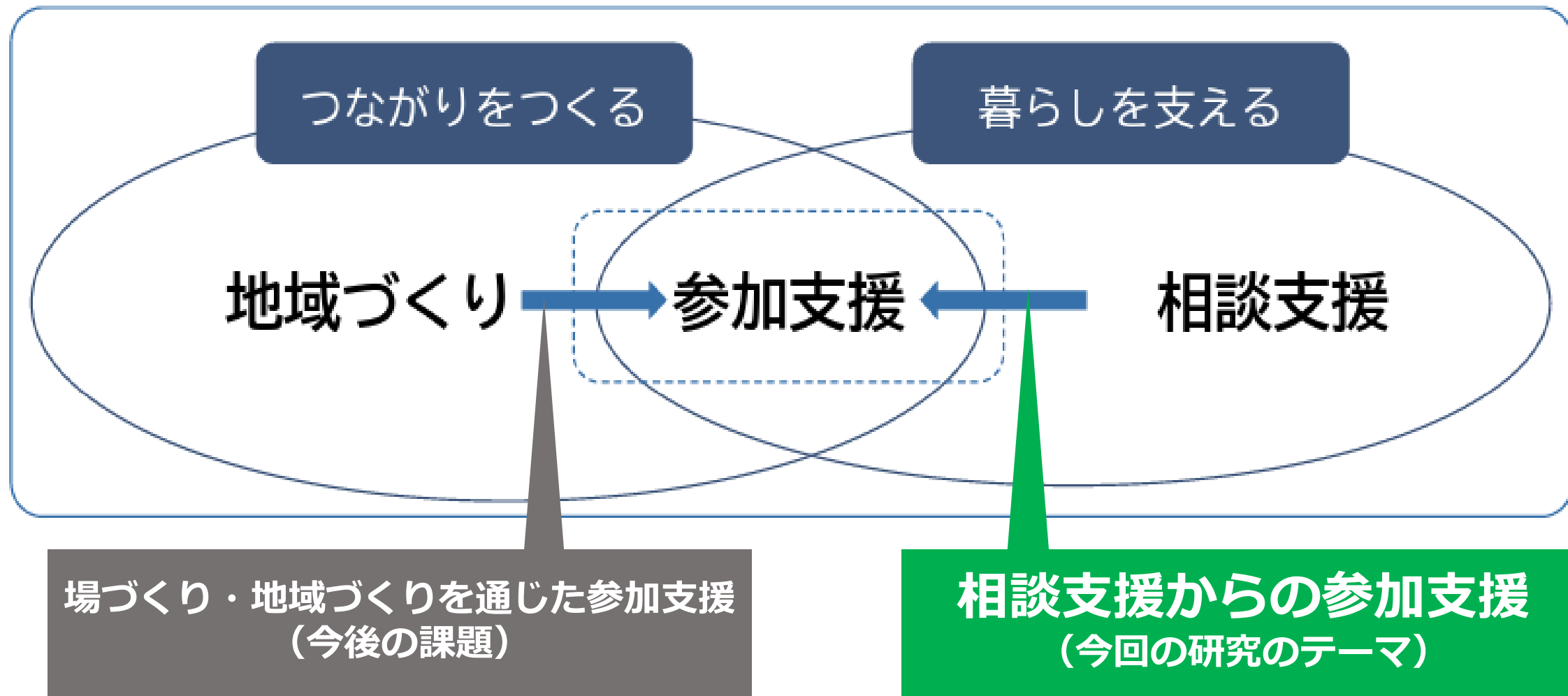
- 社協職員による相談支援からの参加支援の推進方法について、6つのポイント（25の小項目）及び実践するうえで備えるべき視点を整理することができた。

① 本人との関わり方の入口・きっかけづくりと関係構築	④ 場への参加やつながりづくりに向けた事前調整
□信頼して相談・紹介してもらえる窓口となるよう、周知や日々の関わりを積み重ねる □本人のこれまでの生活スタイル、持っている力、社会との接点や関係性を把握する □本人を気にかける周囲の人の思いにも目を向け、その人との関係性も大切にする	□参加の場を単なる受け皿と見ず、固有の歴史や価値観を持つ活動主体として尊重する □つなぐ際には、福祉専門職としての思いやねらいを伝え、ていねいにすり合わせる □事前の情報共有にあたっては、個人情報の取扱いやプライバシーには十分に配慮する □本人の円滑な参加にあたって壁となることを想定しておき、事前に調整する □本人に合う場がない場合は、新たな場の必要性を福祉専門職として共有・検討する
② 生活課題への対応を中心としたアセスメントと具体的支援	⑤ 参加やつながりのサポートと直後のフォロー
□本人主体を基本とし、本人とともに生活状況や課題を整理し、めざす方向を決める □今すぐに必要な支援は何か、緊急度・優先度を見極め、スピード感をもって対応する □今後の生活を見据え、予測される展開やリスクを想定し、多職種で検討・支援する □福祉専門職としての関わりそのものが、本人にとっては社会との接点の一つと捉える	□初めての場に参加する不安や戸惑う気持ちに寄り添う □顔つなぎ・関係づくり・フォローができるよう、初期段階は同行・同席を重視する □参加後、本人の様子や発言から、感想や気持ちの変化、以後の意向を確認する □参加の場へ感謝を伝え、参加の場と福祉専門職双方の思い・視点・気づきを共有する
③ 社会参加を見据えたアセスメントと提案・すり合わせ	⑥ 状況に応じた支援・調整の継続
□関わりを通じて、望む暮らしやつながり、興味・関心、得意なことなどを把握する □日頃から参加の場・関係先の情報収集に努め、一人ひとりに合った場を考える □本人の判断能力等をふまえ、思いを引き出し、よりよい選択ができるように関わる □本人にとってわかりやすい形で情報や選択肢を伝え、ていねいに意思確認する □場への参加にこだわらず、日常のつながり、社会との接点、関係性を大切にする	□継続参加、参加の形の変化、第2・第3の場の紹介など、状況に応じた支援を続ける □心身状況・意識・環境の変化を見逃さず、生活課題の予防や解決に向けて支援する □本人や同様の課題を抱える人への理解や見守りに向けて、ともに考える機会をつくる □落ち着いた後も、いつでも相談を受ける姿勢を本人、周囲の人、参加の場に伝える

結果・考察

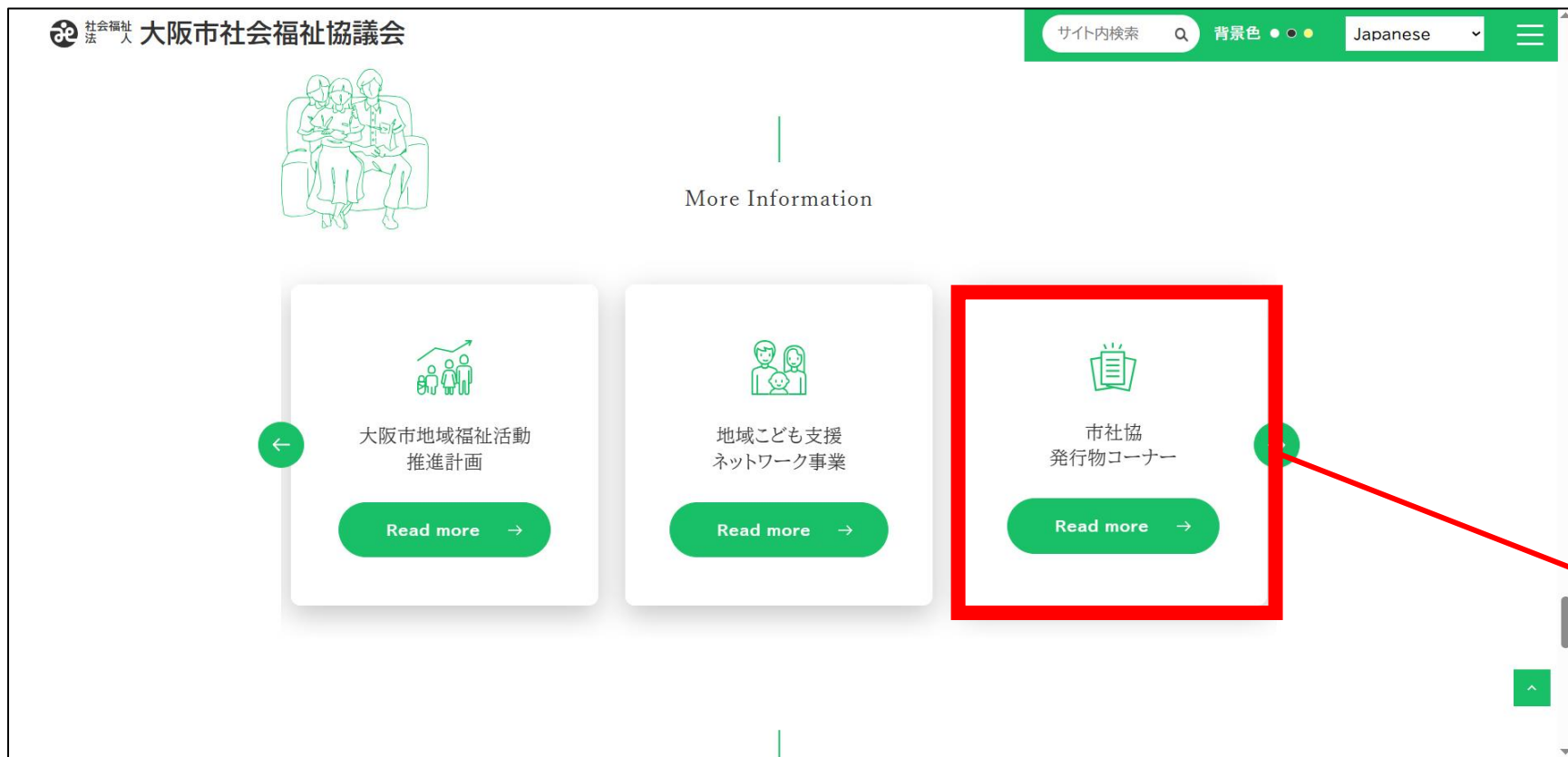
- 本研究は、うまくつながった事例を集約・分析し、導いたものであることに留意が必要である。発表団体によるガイドブックの作成と連動した取組みであるが、この内容を単に啓発・発信するだけでなく、さまざまな制約や個別の事情を抱えた現場での取組みと改めてすり合わせ、効果的な還元や実践への活用を模索することが重要と考える。
- 本研究では、「相談支援からの参加支援」に焦点をあてているが、その支援は「場づくり・地域づくり」の実践や活動の積み重ねがあってこそ実現できるものである。多くの場の運営・実施主体は、地域住民やボランティアがその中心を担っていることも多く、日々の暮らしや活動のなかで、さまざまな思いや気づきを抱き、さりげなく他者を包摂し、参加支援にあたる動きをしていることも多い。福祉専門職と活動主体の間で、思いや視点をすり合わせながら、対話・協働していくことが「相談支援」と「地域づくり」双方から「参加支援」を豊かにしていくことになる。

今後の課題と展望



- ▶ 今後、「場づくり・地域づくりを通じた参加支援」の視点からも実践を豊かにしていくことができるよう、引き続き整理していく予定。

「社協職員・福祉専門職のための参加支援ガイドブック －相談支援からの参加支援－」のダウンロードはこちらから



大阪市社会福祉協議会
ホームページの**トップページ**
を下にスクロールして
「市社協発行物コーナー」
をクリックすると、年度別の
発行物が表示されますので
「令和6年度」から
ご覧ください。

本資料及びガイドブックに関する問合せ先
社会福祉法法人 大阪市社会福祉協議会
福祉部 地域福祉推進担当（電話06-6765-5606）